

特集

市政この1年

一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市まつやま
道後アート2016や北条児童センターのオープンなど、市民の皆さんが笑顔になる出来事を中心に、今年1年の市政を振り返ります。(12月1日現在)



道後アート2016開幕
平成26年から始まった道後でアートの取り組みの3年目。画家の山口晃さんをメインアーティストに迎えた「街歩き旅ノ介 道後温泉の巻」山口晃 道後アート2016」が開幕しました。直近の平成27年観光客推定数は、3年連続で増加し580万4,400人、道後温泉宿泊者数は過去15年で最高の93万3,700人、外国人観光客数も過去最高の13万3,800人でした。



北条スポーツセンター野球場落成
北条スポーツセンターに野球場が2面完成し、要望が高かった硬式野球にも対応できる環境が充実しました。

賑幸 (振興)



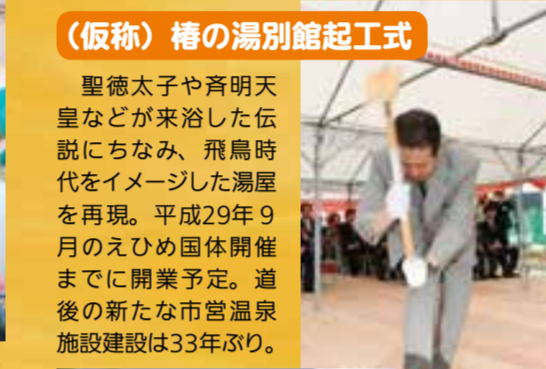
えひめ国体リハーサル大会を開催
平成29年に開催される「愛顔つなぐえひめ国体」のリハーサル大会が、「第57回都道府県対抗なぎなた大会」を皮切りに市内各地で行われました。



都市景観大賞「都市空間部門」でローブウエー街・大街道周辺地区が、四国で初めて最高位の国土交通大臣賞を受賞。



東京理科大学と夏目漱石・「坊っちゃん」が縁で連携
夏目漱石の小説「坊っちゃん」の主人公が卒業した東京理科大学と来年の漱石生誕150年に向けて、協定を結び、本市で秋山仁さんの数学教室や科学体験フェアが開催され、多くの子も参加しました。



（仮称）椿の湯別館起工式
聖徳太子や斉明天皇などが来浴した伝説にちなみ、飛鳥時代をイメージした湯屋を再現。平成29年9月のえひめ国体開催までに開業予定。道後の新たな市営温泉施設建設は33年ぶり。



本市消防局マスコットキャラクター「はっぴーカバー君」が県内で1位を獲得
「ゆるキャラ@グランプリ 2016 in 愛顔のえひめ」が西日本で初めて本市で開催され、本市消防局マスコットキャラクター「はっぴーカバー君」が県内で1位を獲得しました。2日間で5万2千人の来場があり事業費の5倍を超える3億6,200万円の経済効果を生みました(IRC)。



光のおもてなし in 松山城2016を開催
松山城とひろしまドリミネーションのプレミアム企画で「光の花畑」や「プラチナドラゴン」など25種類の多彩なオブジェが松山城を華やかに彩り、3万2千人の来場者でにぎわいました。

今年、市民や民間の皆さんと一緒に取り組んできたことが実を結び、たくさん笑顔に出会うことができた1年でした。北条児童センターの整備や余土中学校の移転は、タウンミーティングなどでいただいたご意見をもとに、地域の皆さんと一緒に作り上げることができました。 「子は宝」といいます。が、新しい施設で伸び伸びと過ごす子どもたちの笑顔と、それを見守る地域の皆さんの笑顔が心に残っています。 また、こうしたまちづくりが国の内外で高く評価された1年でもありました。 ローブウエー街・大街道周辺地区や松山アーバンデザインセンター、道後温泉周辺地区が相次いで都市景観に関する表彰を受賞したほか、ことばの取り組みや団体の表彰、また地域防災力の強化に取り組んでいる松山市自主防災組織ネットワーク会議が防災功労者総理大臣表彰を受賞したことは、松山にとってかけがえのない財産です。 まちづくりは行政だけではなく、市民の皆さんと一緒に知恵を出し合いながら、私自身も笑顔忘れず、幸せを感じ取ります。そして、この豊かなふるさと松山を100年先も輝き続けるまちとして、次の世代に確実につないでいきたいと思います。

地域の皆さんと「まちづくり」を一緒に
現場「を大切に市民の皆さんと一緒に」
民の皆さんと一緒に
知恵を出し合いながら、私自身も笑顔忘れず、幸せを感じ取ります。そして、この豊かなふるさと松山を100年先も輝き続けるまちとして、次の世代に確実につないでいきたいと思います。

月	日	できごと
1	23	ことばのちから実行委員会が平成27年度ふるさとづくり大賞 団体表彰(総務大臣賞)を受賞
26		松山創生人口100年ビジョン・先駆け戦略を策定
2	7	第54回愛媛マラソンを開催
16		聖カタリナ大学・同短期大学部、松山東雲女子大学・同短期大学と松山市との連携に関する協定調印式 北条浄水場が完成
20		斑鳩町と「観光・文化交流都市協定」を締結
22		1人1日当たりのごみ排出量が、人口50万人以上の都市の中で「9年連続で最少」を達成
3	1	松山城二之丸史跡庭園が「恋人の聖地 観光交流賞」を受賞
22		第31回宇宙技術および科学の国際シンポジウム(IST)愛媛・松山大会地元元事業実行委員会設立
29		愛媛大学と地域小児保健医療学講座の設置に関する協定締結
30		久谷地区簡易水道統合整備事業完了 市中小企業振興計画・市地産地消促進計画を策定
4	1	1 松山医療圏域3市3町の二次救急医療体制を強化(愛媛医療センターが救急病院として参加し、県立中央病院が後方支援) 市教育研修センター開所 首都圏まつやま移住相談窓口開所 横須賀市と「観光交流都市協定」を継続して締結
5		5 「まつやま経営交流プラザ」リニュアル
9		9 北条スポーツセンター野球場落成 日浦地区まちづくり協議会設立
19		19 熊本地震緊急消防援助隊愛媛県統合機動部隊出動
27		27 浅海地区まちづくり協議会設立
29		29 道後アート2016開幕
5	19	19 四国市長会議が26年ぶりに松山市で開催
26		26 都市景観大賞「都市空間部門」でローブウエー街・大街道周辺地区が、四国で初めて最高位の「国土交通大臣賞」を受賞
28		28 えひめ国体リハーサル大会を初めて開催(なぎなた)
6	2	2 東京理科大学と「夏目漱石・「坊っちゃん」をゆかりとした文化交流、科学啓発等に関する連携協定」を締結
6		6 松山ひじきがまつやま農林水産物ブランドに認定
9		9 「もぶるテラス・みんなのひろば」が第2回「まちなか広場賞」で全国初の「大賞」を受賞
19		19 まちづくり提案制度 次世代育成支援事業補助金審査会を開催
7	6	6 光のおもてなしin松山城2016を開催
8		8 連携中枢都市宣言と連携協約締結
9		9 (仮称)椿の湯別館起工式
11		11 味酒地区まちづくり協議会設立
16		16 北条児童センター開所
8	1	1 本市で初めて、地域おこし協力隊4人が就任
12		12 韓国・平澤市の孔在光市長に特別名誉市民を贈呈
13		13 平澤市代表団が本市を訪れ、松山まつりに参加
21		21 第31回トリアスロン中島大会の開催
24		24 第45回全国消防救助技術大会が四国で初めて松山で開催
9	6	6 余土中学校新校舎落成式を開催
12		12 「市自主防災組織ネットワーク会議」が平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞
18		18 まちなか子育て・市民交流センター「てくるん」利用者が50万人達成記念イベントを開催
20		20 道後温泉周辺地区が「2016アジア都市景観賞」を受賞
29		29 松山アーバンデザインセンターが「2016年度グッドデザイン賞」を受賞
10	4	4 「リオ2016」パラリンピック競技大会「柔道女子57kg級」で銅メダルを獲得した廣瀬順子選手に市文化スポーツ賞を授与
7		7 プロバスケットボールチーム「愛媛オレンジバイキングス」のホームゲームが本市で初めて開催
14		14 米国・サクラメント市と姉妹都市提携35周年を記念し、同市から訪問団が来松
11	2	2 松山イクボス合同宣言
5		5 「ゆるキャラ@グランプリ 2016 in 愛顔のえひめ」が西日本で初めて本市で開催。グランプリにエントリーした本市消防局マスコットキャラクター「はっぴーカバー君」が県内で1位を獲得
6		6 第2回「坂の上の雲」のまち松山 サイクルロゲイング大会を開催
13		13 久谷地区まちづくり協議会設立
16		16 俳句甲子園実行委員会が全国地域づくり推進協議会会長賞を受賞
25		25 道後温泉が「温泉総選挙2016」女子旅部門の1位に



北条児童センター開所
市内8館目の児童館が北条文化の森内の保健センター北条分室を改修し、児童センターと保健センターの複合施設としてオープンしました。



余土中学校新校舎落成
生徒数増加の増築などで校舎と校庭が分断される状態が続いていた余土中学校の移転が完了しました。



第45回全国消防救助技術大会が四国で初めて松山で開催
四国で初めて松山市で開催され、本市消防局からも救助隊員26人が出場し、基本泳法で2位、ほふく救出で3位などの好成績を収め技術を高めました。全国から3万人を超える来場があり防火・防災の理解を深めました。



まちなか子育て・市民交流センター「てくるん」利用者が開館から50万人達成
保育室を併設し、子育てに関する相談や講座を中心とした「まちなか保育」と商店街利用者の休憩スペースを備える「てくるん」。開館から約4年半で50万人を達成し、記念イベントが開催されました。



東雲小学校新校舎完成
昭和20年代の建築で、老朽化や耐震性の対応が必要であった東雲小学校の校舎を建て替えました。児童数の減少から規模を適正化し、市教育研修センターも整備しました。



松山イクボス合同宣言
市の呼びかけに賛同した、市内の121企業・団体と松山イクボス合同宣言を行いました。従業員や部下の仕事とプライベートの両立を支援し、少子・高齢化社会への対応や地域経済の発展にオール松山で取り組みます。



まちづくり提案制度 次世代育成支援事業をスタート
子どもや若者が自分たちで考え行動する「まちづくり活動」を応援する制度を開始。プレゼンテーションを審査し、6団体の支援を決めました。



連携中枢都市宣言と連携協約締結
松山市が連携中枢都市として、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町と連携して地域経済を活性化し、魅力ある圏域形成を目指すため連携協約を締結しました。

健幸 (健康)